

二〇二五年度 医学部医学科一般選抜試験(三日目)

「論文」問題用紙

注意事項

- 1 解答用紙に受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、下書用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

システムが複雑になると、エラーをゼロにすることはかなり追いついては本来の目的を見失ってしまいかねない。安全を考える上でエラーをなくすことは当然であるが、それが難しいことを考えると、万一、エラーはあってもシステム全体としてうまく働いてくれることをめざすべきである。

そこで、安全やエラーをどうとらえるかを考え直さなければならぬ。ホルナゲルという安全心理学者が安全に対する考え方として Safety-I と Safety-II とどうとらえ方を提唱した。ホルナゲルの2つの提唱は、エラー防止に対する考え方に違いがある。

Safety-I の考え方は、安全というのはエラーがないことだとし、それをなくすことが目標となる。そのため、エラーが生じたらどのように対処するかが検討される。事故の発生は、エラーを含む何らかの不具合によって起きるものだと考える。そこで人間という存在は間違いを生じさせてしまう、どちらかというやっかいなものだと考え、人間にエラーを生じさせないようにすることが求められる。

システムが比較的単純であれば、Safety-I の考え方でエラーの防止は可能である。しかし、システムが複雑になるとエラーそのものをなくすことは困難であり、そのとらえ方を変えていく必要がある。

安全を考える際に、Safety-I ではエラーが少ないことを安全だととらえるが、エラーの少なさを指標としてとらえるのは違和感がある。確かにエラーが少ないことは裏を返せば、安全だということだが、この場合、安全である事象の多さを指標にすべきではないかと考えるほうが自然である。

システムが複雑になると安全を脅かす不確定な要因がさまざまに存在している。問題になりそうな場面に直面しても、人間はそれとうまく対処しようとする。それを評価すべきではないかと考えるのが Safety-II である。

そのために、安全の対策とはエラーや事故が生じてから対策を検討するのではなく、問題になりそうなことをあらかじめ想定しておいて、そのような場面でうまく対処できる策を先んじて検討するという考え方である。

事故やエラーは、ある人が特別に間違ったことによつて生じるものではない。通常の行動や判断を行っていても、システムが複雑であるといつても同じ状態であることはなく、エラーが生じるリスクが常にあり、不測の事態や想定外のことが起こったりする。そのため、人間に対して、エラーや事故を起こしても責任の追及はせず、問題が生じそうな場面で柔軟に対応でき、うまく対処できる存在だと期待するのである。

〈中略〉

要は安全になればいい。エラーをなくすことを考えるよりも、行いたい仕事や作業が満足のいくレベルに達することを目指せばよい。エラーは起こってもいい。ただし、エラーが起こっても外的手がかりで気づかされ、それにうまく対処することを考える。そう考えると安全のとらえ方が違う。安全というのはエラーがないことではなく、事がうまくいくようにすることである。それが Safety-II の考え方だ。

新型コロナウイルスの対応を考えてみよう。
感染者を誰ひり出さないということは安全であるかもしれない。この考え方は Safety-I に近い。しかし述べてきたように、自然界の中で感染は常に起こりうることであり、それをまったくゼロにすることには意味がない。感染が始まった当初はどのようなものかわからないので、感染者をできる限り少なくすることを求めようとしたのだろうが、そのようなことをいつまでも続けられるわけではない。

症状がなくても陽性者や濃厚接触者を隔離してしまう方策もとった。そのため、経済や社会が停滞して立ち行かなくなってしまったし、感染対策に従事していた行政、医療も疲弊してしまつた。

感染者をなくすのではなく、症状が出た人には治療的なケアをしつかり施し、一方で社会や経済がある程度機能するようにする——このような考え方が Safety-II である。

感染が始まった当初は Safety-I であつた。対策として「感染」という事象だけを見て、それをなくすことだけに注力していた。その裏には社会や経済が崩壊してしまう懸念があつた。案の定、経済的な損失だけではなく、学校をはじめ諸活動がストップしてしまつた。学生たちにとっては人間として経験し成長の糧とすべき活動ができなかつたことによる損失も大きい。その損失の影響はすぐには見えてこないが、将来的に大きな禍根となろう。感染者が出てしまうことは仕方がないとして、社会全体としてうまく機能することが大事である。その考え方が Safety-II である。

(松尾太加志著「間違い学」新潮新書)

問1 この文章に20字以内でタイトルをつけよ。

問2 エラーに対して人間に求められることは Safety-I と Safety-II どのように違うか。本文の内容に即して100文字以内で述べよ。

問3 医療事故がしばしば報道されているが、医療におけるミスや事故について、どのような対応が望まれると考えるか。本文の内容をふまえ、あなたの考えを800字以内で述べなさい。